

家庭教育力の強化を図る

子どもと語り 子どもと楽しむ 「こどもまんなかPTA活動」

清須市立桃栄小学校PTA

1 はじめに

桃栄小学校は、清須市の南西部に位置し、今年度34年目を迎える。令和6年度は児童数240名、学級数14（特別支援学級3含む）、PTA会員177人でスタートした。学校は最寄り駅から徒歩10分の位置にあり、校区には住宅地が広がり、その中に畑が点在する比較的確かな雰囲気のある環境にある。

校区には、積極的に子どもたちに声を掛け、関わってくださる保護者や高齢者が多く、とても温かい雰囲気である。



【校舎全景】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校PTAは、保護者と教師が協力して、家庭と学校と地域社会における児童の健全な成長を図ることを目的に活動している。家庭教育力の強化に向けては、特別に行事や研修を行うというより、日頃から子どもと一緒に考えたり、子どもと一緒に活動したりする機会をもつことが大切である。また、保護者が学校や地域の活動に積極的に参加し、地域の方と協力しながら活動している姿を子どもたちに見せることも、大きな家庭教育力につながると考える。しかし、共働き・核家族の家庭が多く、子どもと一緒に考えたり活動したりする時間をとれなかったり、ボランティア活動やPTA活動に参加することが難しかったりする家庭も多い。

そこで、PTAとして、家庭の状況に合わせて、無理なく子どもと触れ合える機会を設けたり、ボランティア組織を見直して、できるときのみ参加できる体制を整えたりすることで、より多くの家庭を巻き込み、広く家庭教育力の強化を図りたいと考えた。

(2) PTA組織

PTA役員は7名、地域から選出される常任委員は21名である。学校支援ボランティア（保護者ボランティア）として、5種類を開設し、「できるときに できることを」を合言葉に活動している。地域住民や祖父母、保護者OB、地域学校協働活動推進員の協力を得て活動している。今年度、教育活動のニーズに合わせてボランティアの種類を見直した。今年度開設している5つのボランティアは、「安全ボランティア」「図書ボランティア」「読み聞かせボランティア」「授業支援ボランティア」「おやじの会」である。

もう一つ、家庭教育力の向上に欠かせないのが、家庭教育支援チーム

「チームMOMO」の協力である。「チームMOMO」とは、平成20年度、文部科学省からモデル事業の委託を受け、桃栄小学校を起点として結成された家庭教育支援チームである。現在、メンバーは7名である。

3 実践活動の概要

(1) 子どもと取り組む「ふれあい活動」の設定・推奨

① 子どもとともに「家族で読書」

例年行っている保護者ボランティアによる読み聞かせの他に、今年度は新たに次の3つにも取り組んだ。

【読み聞かせ講習会の開催】

家庭での読み聞かせやボランティアとしての読み聞かせ活動に役立つため、「読み聞かせ講習会」を開催した。

【どんな本だった？「今日の読み聞かせ」】

年間6回行っている読み聞かせについて、各学級で読まれた本のタイトルを保護者宛にメールで配信した。帰宅後、本について保護者が子どもに尋ねたり、子どもが保護者に本の内容や感想を話したりと、家庭内で本についての会話が弾んだ。また、子どもの目に留まるよう、読み聞かせた本の内容を記録したカードを学校の廊下に掲示した。

このように、読み聞かせを工夫することで、親子で本について語り合うきっかけとなったり、子どもたちが本の内容について振り返る機会としたりすることができた。

【子どもと読もう「家族読書」】

夏休み期間を活用して、家族で読書をしようと呼びかけた。保護者が子どもに読み聞かせをしたり、子どもが保護者に読み聞かせをしたり、兄弟で役割分担をしたり、同じ本を読んで感想を伝え合ったりと、それぞれの家庭で方法を選んで取り組んだ。



【家族読書】

② 子どもと取り組む「防災教育」

近年、地震や台風の被害がニュースで多く報じられている。この地域も、2000年に東海豪雨の被害に見舞われた。防災教育は、学校・家庭ともに大きな課題であると考え、次の2つに取り組んだ。

【確かめよう！我が家の防災対策】

防災月間である9月、各家庭の防災対策について、親子で話す機会を設けた。家具の固定や持ち出し品の確認、避難場所の確認や災害



【家庭で防災対策の確認】

が起きたときどうするかなど、4年生以上の児童と保護者を対象にプリントを配付し、各家庭で確かめようと呼びかけた。その際に、取組が家庭の負担になりすぎないように、内容を検討した。

【防災授業への協力】

4年生の子どもたちが、総合的な学習の時間の授業で「水防カルタ」に取り組んだ。そこで、PTAの授業支援ボランティアが読み手として協力した。このカルタは、東海豪雨の苦しかった体験を忘れないよう、当時の中学生やボランティアによって作成されたものである。カルタを1枚ずつ読んだ後に、「読み札」に書かれた句と「絵札」に描かれた風景を子どもたちと一緒に確認し、東海豪雨の大変さを感じながら防災意識を高めた。

子どもたちからは、「被害にあった小中学生の言葉で作ったカルタだから、読み札をしっかりと読んだ」という感想が聞かれた。

③ 子どもと話そう「情報モラル」

近年、SNSやオンラインゲームでのトラブルが低年齢化している。そこで、PTAと学校が協力してチェックシートを作成した。

【情報モラルチェックシートの配付】

学校で使用されていた「情報モラルチェックシート」を基に、PTA役員会で項目の見直しをし、夏休み前に3年生以上の児童に配付した。日頃のスマートフォンやゲーム機の使用について振り返り、夏休みに向けて親子で「我が家のルール」を話し合う機会を設けた。

④ 子どもと一緒に「ふれあい除草」

【学校周辺クリーン活動】

自分たちの学校や、住んでいる地域をきれいにしようとする気持ちを育てるために、児童と保護者・地域の方が一緒に、学校内・学校周辺の除草やゴミ拾いを行った。

参加した保護者からは、「草取りも、子どもといっしょにやるっていいですね」という声が聞かれた。

(2) 地域での見守り活動・あいさつ運動

① 全家庭による登校時の見守り活動

「安全ボランティア」による見守り活動の他に、全家庭が参加した登校時の見守り活動を行っている。地域から選出されたPTA常任委員が当番順を決めて、学校と協力しながら当番を割り振っている。都合がよくないときには、代わってもらったり、別の日で担当したりと、全家庭が無理なく協力できるように工夫している。

当番の保護者からは、高学年のがんばりに感心したり、安全面での課題に気付いたりする声が聞かれた。

② PTAと児童会との「コラボあいさつ運動」

本校では、PTA役員・常任委員を中心に登校時の「親子ふれあいあいさつ運動」を年間5回行っている。今年度は、児童会と一緒に

「コラボあいさつ運動」を行った。

(3) 家庭教育支援チーム「チームMOMO」との連携

① 家庭教育研修会の実施

毎年、「チームMOMO」を講師に迎え、保護者向けに家庭教育研修会を行っている。今年度も、9月に「子どもとの関わり方を振り返る」というテーマで開催した。参加した保護者からは、「つい、子どもに注意ばかりしてしまうので、今日は温かい言葉をかけようと思う」という声が聞かれた。



【コラボあいさつ運動】

② 入学説明会での保護者への講話

1月の入学説明会で、入学児の保護者に向けて、「チームMOMO」による講話をPTAとして依頼した。入学時は環境が大きく変化するため、子どもの話に耳を傾けることが大切であるという内容に、大きくうなずきながら聞いている保護者の姿が、毎年見られる。

③ 個人懇談会時に親子で立ち寄れる「ふれあいサロン」開設

学期末に行われる個人懇談会で、「チームMOMO」による子ども預かりが行われる。その折に、親子で気軽に立ち寄れる「ふれあいサロン」を開いていただけるよう依頼した。子どもが読書をしたり、工作をしたりしている間に、日頃の何気ない子育ての悩みを聞いてもらい、先輩ママである「チームMOMO」にアドバイスを求める保護者の姿が見られた。

4 おわりに

研究を通して、毎年実施しているPTA活動が、会員同士のつながりを強めたり、家族のふれあいを深めたりしていることを改めて実感した。さらに今年度は、読書活動、防災教育、情報モラルといった現代社会の課題について、家族で話題にしたり、活動したりする機会を設けるよう働きかけてきた。保護者から、「気になっていたスマホの使用について話す機会となった」「きっかけをもらえたので、親子で防災対策をチェックすることができた」「草取りも親子ですると楽しかった」という声が聞かれ、これらの活動が、家族のつながりを深め、家庭教育力の強化につながるきっかけとなったと言える。

また、子どもたちが自分の親がボランティアに参加している姿を見て、嬉しそうに、また誇らしげに目を向ける様子が印象的であった。ボランティアに参加している姿を子どもたちに見せていくこと自体が、大きな家庭教育力の向上につながっていると言える。

今後も、学校・家庭・地域で協力して、「子どもと語り 子どもと楽しむ 子どもまんなかPTA活動」となるよう進めていきたい。